

令和5年度 なでしこグループ 放課後児童クラブ 自己評価

学校法人 撫子学童クラブそら・ほし 滝沢中央学童保育クラブ第一
 社会福祉法人 室小路学童クラブうみ・やま 滝沢中央学童保育クラブ第二

1. 「令和5年度の目標（内容）」についての取り組みについて

なでしこグループ 放課後児童クラブ 令和5年度の目標（内容）	反省・意見
<p>支援員の体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間のコミュニケーションの充実や、グループの支援員の協力体制の強化 ・支援員間同士の意見交換の場、研修、レクリエーションの充実 ・業務内容、業務分担の見直し、効率化を図る。 ・若手支援員への教育、指導の充実 ・支援員全体や個々のスキルアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の職員と様々にコミュニケーションを取りながら、対応してきた。欠席連絡の確認等も業務を分担し、協力を図り効率的に取り組んでいる。 ・新人の先生が多かったので、基本的な仕事を覚えてもらうことを最優先した。業務分担を見直し、個々が出来る事を増やしていきたい。 ・若手支援員の育成には研鑽を積み、具体的な行動を通じて指導を行った。改善の余地や課題も指摘し具体的な改善策と一緒に考え成果を出せるようにした。また、職員間での情報共有をこまめに行い、円滑に進めることができた。 ・今年度、初めて児童と関わる職に就き、戸惑う事も多かった中、先輩方のアドバイスやオンライン研修などで少しずつ知識を増やしている最中だが、自分らしく児童たちと接していきたいと考えている。 ・情報交換の場を大切にし、保育内容を振り返ることができた。業務に、期日を意識し、見通しを持ってできた。 ・児童への対応や連携がスムーズに出来ていると感じる。事故や怪我なく過ごせていることで達成感を得ることはできる。現状で満足して良いか、スキルアップできているか比較できる対象がなく悩ましいところもある。 ・学童グループ職員での意見交換の場を設けることができなかった。 ・年度途中で職員体制が変わり、事務業務や保育の両立が困難な時があった。土曜日の時間調整で平日に出勤時間が遅くなると、業務が進まない時もあった。
<p>保育内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の意見や要望を取り入れながらの保育内容の工夫 ・小学校や地域との交流、連携の強化 ・グループの学童クラブの児童の交流や繋がりを大切にする ・児童が様々な経験が出来るような保育の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年のクリスマス会では、ステージ発表として4年生の劇を取り入れた。自分たちで、脚本からステージ構成まで考え支援員として協力し一緒に作品を作り上げることができた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で小学校との連携が希薄になり、子どもたちの小学校での様子が、把握できないので、交流を深めたい。 ・業務分担を見直し、個々が出来る事を増やしていきたい。自分自身も含め、新人の支援員が多いので様々な出来事の対応の仕方や経験不足なところが多々あった。コミュニケーションを取りながら保育することが前年度と比べてできてきた気がする。 ・長期休みのレクでは児童が様々な体験ができて、とても良かったと思う。グループの学童クラブの交流が無く、残念だった。 ・季節によって子どもたちが経験できる保育実践ができた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携が年々薄くなっている。学童支援員が学校の行事に参加出来る機会があれば良いと感じた。 ・子どもの気持ち、意見を取り入れながら相方が充実感を得られるような取り組みができればよい。大人が主導し子どもが主体となって取り組むことが理想だ。
特別な配慮が必要な児童へのかかわりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等を通して特別な配慮が必要な児童へのかかわりについての学びの充実 ・個人の記録や事例をもとに情報共有 ・外部研修に参加し、学びを深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童とののかかわり方や配慮事項など学ぶことができた。研修等で学んだことを、周囲の職員と共有し全員で学びを深めていった。 ・配慮が必要な児童が増え、保護者からの相談も増えた。職員間で共通理解を行い、薬の服用が必要な児童など体制を強化した。 ・特別な配慮が必要な児童とののかかわりは日々変化し数回の研修では到底理解できない。具体的な内容で質問や相談ができるような研修に参加してきたい。 ・発達支援についての参考書を読むなどして積極的に学びを深めていきたい。生活の流れやルールを伝え慣れて覚えてもらえるよう取り組みをしてきた。情報共有しながら、その児童に合った対応を心がけてきた。 ・おがーるシステムの導入、機能追加があり、便利になった分やり方など早く覚え、仕事を効率良く行っていきたい。 ・声かけの仕方やトラブル時の児童への聞きとり、声掛け等、まだまだ未熟でうまく指導出来ない時があるので、話しをしっかりと聞き対応できるよう。

1, 放課後児童クラブの取り組みについての評価（自己反省も踏まえて） 回答…16名

- A…十分達成されている
- B…達成されている
- C…取り組まれているが、成果が十分でない
- D…取り組みが不十分である

評価の観点	評価の項目	評価	評価項目の取り組みについての意見
育成支援の基本	放課後児童クラブ運営指針の理解と実践 放課後児童支援員の役割、社会的責任の理解と実践	A 3名 B 12名 C 1名 D 0名	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後支援員として、学校でのストレスやトラブルをケアしながらかかわっている。 ・周囲の支援員と子どもの様子を報告相談し、みんなで支援・配慮できるよう努めてきた。 ・放課後に子ども達や保護者が安心して過ごせる場所を作れるよう、環境設定や遊びの面で支援員同士日々、話し合いを行っている。 ・子どもたちの健全な成長をサポートする重要な役割を担っていること。生活習慣の指導や遊びを通じた成長促進を行った。 ・安全に安心して楽しく過ごせるようサポートした。集団の中での子ども同士の関わりを大切にしたい。

子どもの発達理解	発達の特徴や発達過程の理解と実践	A 1名 B 11名 C 4名 D 0名	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に合わせた制作の手順を工夫しながら計画を立てている。子どもによっては難しい部分もあるため伝え方を変えて途中まで援助する等工夫した。 ・個別の発達を様々な視点から汲み取り、その子にあった支援をしていきたい。 ・学年に合った支援ができるよう保育をしている。 ・思春期の子どもに対する指導が困難な時もあったが、状況を見極め支援した。低学年では善悪の判断・情操を育て、集団での役割意識や責任感が育つようにした。
	育成支援についての理解と実践	A 0名 B 13名 C 3名 D 0名	<ul style="list-style-type: none"> ・ホール遊びの種類が増え、危険を感じることも増えてきた。 ・避難訓練や保健衛生に関する取り組み、対策は随時行ってきた。 ・おもちゃの清掃整理整頓はもう少し努力していきたい。 ・年度初めに2年生男子のケガが1件発生した。靴を履かずに追いかけてこをして転倒口をテーブルに強打した。新1年生が利用して間もない時だったので、次年度は声がけや環境設定を強化したい。 ・保健衛生に関しては、日々先生方の協力もあり、徹底できた。また、備品も記録を残し管理ができた。 ・防災について今年度は職員での勉強会も行うことができた。児童の手が触れやすい場所は、念入りに消毒をするよう心がけている。
子どもの発達理解	配慮が必要な児童への対応について	A 1名 B 10名 C 5名 D 0名	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育で気になる子どもの得意、不得意を観察し、その子に合わせた声がけや援助を工夫した。 ・保護者との情報共有を行うため、ノートを用意し、何か伝えたいときは活用している。職員間では、情報共有も行ったが、個々の特性を踏まえ、他の職員と協力して対応した。 ・日々のミーティングを通して共通理解し、自分なりに関わってはいるが、まだまだどのように対応するのが、その子のためになったのかと悩むこともある。日頃からの対話を心掛けて信頼関係を築き、気持ちと言葉が伝わり合うようにしていきたい。 ・的確な指示を出せるよう心がけた。保護者と連携しながら、対応できた。
	小学校との連携	A 1名 B 8名 C 5名 D 01名 無回答1名	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での様子が発表会や運動会といったイベントの時でしか知ることができない現状である。 ・なで保との連携は常にできていて、毎月の会議に参加し、情報交換もできている。未滿時のお手伝いに参加させて頂き、子どもたちも良い刺激になっていた。 ・なでしこ保育園と今年は2回異年齢交流の機会を持つことができた。グループ園として連携を深めるために園のクラス見学や、担任の先生とのワークショップを実施。未滿児さんとの触れ合い交流は、子ども達に大好評だ。積極的に交流を行い、保育のお手伝いをする機会を作れたから。 ・うかいっ子劇場を見学し、学校での様子を一部見ることができとても嬉しかった。 ・小学生と幼児との交流の機会もあれば児童たちも喜んで参加してくれるのではないかと感じた。 ・ふじなでしここども園と併設している学童のため、園児ともかかわれる行事を作っていきたい。
	地域組織との連携取り組みについて	A 1名 B 8名 C 5名 D 1名 無回答1名	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園の給食室が利用している店と協力し、ハロウィンのおやつを提供した。子どもたちにとっても大人気で、おかわりする子が多かった。地域の店と連携することの大切さを学び、子どもたちの活動にも取り入れていきたいと感じた。 ・地元のパン屋におやつを注文したり、滝沢市の施設を使ってレクリエーションをしたりするなど出来た。 ・室小路学童クラブや滝沢中央学童クラブとも機会があれば、交流をしてみたいと感じた。職員同士の交流の場もあれば、学業の児童への対応の仕方を学ぶことができる。
	保護者との連携 保護者からの相談への対応について	A 4名 B 10名 C 1名 D 1名	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席の連絡だけでなく、子どもの様子について積極的に話している。保護者からの相談には真摯に向き合い、話を聞き、対応出来ることはしっかりと対応した。 ・自分の育児経験談なども話しつつも深く浅く、保護者に寄り添える存在となるように努めた。 ・お迎えが込み合い、気になることを報告できなかった時はその日のうちに電話で迅速に対応した。 ・言葉遣いなど気を付けるように意識はしたが、今後も意識を高めていきたい。 ・保護者からの相談には丁寧に対応し信頼関係を築き、子どもの成長を最大限に支

			えた。学童での何気ない様子なども伝えようと努力をしている。 ・保護者と話す際は伝え方や言葉遣いに気を付け、対応をしている。
盤 運 営 に 関 わ る 組 織 的 基 盤	研修への取り組み	A 4名 B 5名 C 5名 D 1名 無回答1名	・支援員として困っていることを書き出し、学びを深めようとしている。参加できる研修には積極的に参加した。 ・必要と考える研修についても施設長と話し合い、研修の機会を設けた。 ・発達障がいのある子どもへの接し方に関する研修に機会があれば参加したい。 ・アレルギーについての研修に参加した。自分の知らないことを知りすぐ実践に活かせるお話を聞いてよかったと思った。
盤 運 営 に 関 わ る 組 織 的 基 盤	施設整備・管理 職員処遇 出納管理	A 0名 B 13名 C 3名 D 0名	・子どもたちの興味を考え、玩具をローテーションして準備している。壊れているものは、気づいたら修理するようにしている。 ・出納管理は、事務職員と連携し適切に行った。

3、なでしこグループ 放課後児童クラブ 令和6年度の目標（内容）

※次年度への意見等を参考に立案

支援員の連携、協力体制	下記の内容について、各学童クラブで担当者を決め、計画的に実施予定 ① グループの支援員の協力体制の強化 ② 支援員同士の意見交換の場、交流、研修、レクリエーションの充実 ③ グループの学童の児童の交流
保育内容の充実	① 児童の育ちや年齢に応じた保育内容、援助の工夫 ② 季節の行事やレクリエーション等、児童が様々な経験が出来るような保育の計画 ③ 小学校との連携（情報共有会、授業参観、行事への参加等）
研修等を通してスキルアップ	① 積極的に外部研修に参加し、個々の支援員のスキルアップ ② 配慮が必要な児童の情報共有、協力体制 ③ クラブ内でのマニュアル見直し等の研修の充実 ④ 業務内容、業務分担の見直し、効率化を図る